

さいくうあと通信

発行

明和町 斎宮跡課（明和町大字馬之上 945）

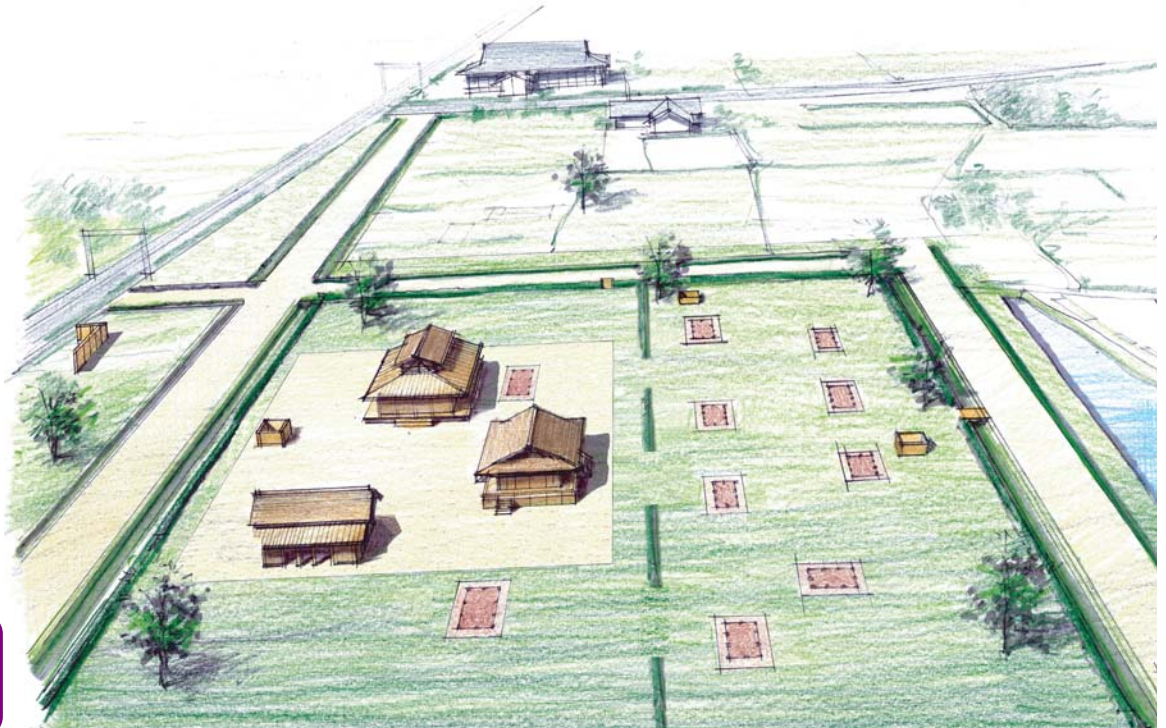
電話：0596-52-7126（直通）

F A X：0596-52-7133（役場庁舎2階）

メール：saikuuato@town.mie-meiswa.lg.jp

今年の秋ごろから
史跡斎宮跡東部整備がスタート

実物大
復元建物



整備のイメージ図（提供：斎宮歴史博物館）

三重県が計画している史跡斎宮跡東部整備事業が、今年の秋ごろからいよいよ始まります。整備場所は、いつきのみや歴史体験館の東側で、実物大復元建物建設地の造成工事や、区画道路部分の舗装準備工事などが行われます。

斎宮跡が栄えた平安時代初期（約1200年前）には、道路と側溝で区切られた碁盤目状の土地区画が存在していたことが、今までの発掘調査により確認されています。この土地区画を「方格地割」といい、下写真のように碁盤目状に区画が分けられています。一区画が120m四方という大きさを区画され、その区画が東西に7区画、南北に4区画存在していました。方格地割の20余数のブロックに分けられた空間は、さながら官庁街というような風景だったと考えられます。



1/400 方格地割模型（提供：斎宮歴史博物館）

また、その区画を囲む道路（側溝を含む。）の幅は非常に広く、約15mもありました。幅15mの道路といっても、なかなかイメージしづらいと思いますが、イオン明和ショッピングセンターとブライトガーデン明和の交差点付近の道路（歩道を含む。）と同じ程度の幅です。現代と同じような幅の広い道路が斎宮跡に存在したということは、それだけ斎宮跡が大規模な遺跡であることが分かります。

工事の進捗状況は、本誌でも随時お伝えしますので、どうぞ楽しみにお待ちください。

祓川橋と神宮橋

伊勢に群行してきた斎王は、斎宮に入る前に祓川（はらいがわ）で禊（みそぎ）をしていました。

また、江戸時代には参宮客もこの川を渡るときに、おはらいをして身を清めたことから、この名前が付いたといわれます。

現在の祓川橋（右写真）は、昭和41年に架けられました。しかし、橋がなかった江戸時代初期から明治時代までは、冬から春にかけての湧水期に板橋を架け、夏から秋にかけての増水期には舟で旅人を渡

し、それぞれ橋銭（はしせん）や舟賃を徴収していました。その昔、祓川の渡して参宮客が流される事故があり、その時に流された参宮客を金剛坂の人が葬り、供養したという物語が地域に語り継



祓川と祓川橋（明和町側から撮影）

がれています。

現在の祓川橋は、写真のように斜めから見ると、竹林や赤く塗られた欄干（らんかん）によってとても風情があり、斎宮跡になじんだ風景となっています。

また、祓川橋から200m下流には、神宮橋（じぐばし）と呼ばれる橋が架かっていました。

しかし、江戸時代の参宮街道のにぎわいに伴い、現在の祓川橋辺りの舟渡しを利用する参宮客が多くなり、そのころから神宮橋は地元の生活の橋へと変わっていきました。

神宮橋は、近年の台風によって流失し、その後復旧されていませんが、地元からも強く復元の要望があります。

明和町では、両岸に説明看板を設置しています。神宮橋が復元されるまでの間、当時どのような橋だったのか、訪れていただいた皆さんにイメージしていただければと考えています。



祓川橋と神宮橋の位置図



神宮橋の説明看板